

今年の漢字は「金」でした。パリ五輪に沸いた夏を思い出します。悲しいことばかりを思い出す私たちに、挑戦すること、くじげないことを教えているのでしょうか。

### シリア州の総督

先週、ついにシリアの独裁政権が崩壊しました。新しい国家がどのようになるかは未知数です。2,300万人の国民のうち、実に1,400万人のシリア人が家を追われ、難民となった人は670万人だそうです。街が、国が、失われるという災いは、何千年も昔のバビロン捕囚の話かと思っていましたが、同じ時間に、地球上で起きています。

100万人の難民が暮らすドイツやトルコ、レバノンの人々にとっては現実的な課題です。いよいよ世界は、新しい時代を迎え、日本も例外ではないでしょう。

聖書には、シリア州の総督キリニウスとあります。まさに舞台はパレスチナです。住民登録のために、全領土の住民が巻き込まれました。この登録は福祉や養護のためではありません。税金と軍事力のためでした。国策や隣国の勢力など、ヨセフにもマリアにも関係ありません。ただ毎日を、平穩に暮らしたいだけです。一番の心配は、お腹の赤ちゃんが無事に産まれてくることです。でも、国家も、宗教も、それを守るどころか、脅かすことばかりを命じ、それに翻弄されたのでした。

ルカは、哀歌として福音書を書いたのではありません。福音がいかに力強いものであるかを証しするために、ペンを走らせました。そして、続編である使徒言行録に、見事にこの対比となる記述を織り込んでいます。「あなたがたの上に聖霊が降るとき、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土（全領土）で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」（使徒 1:8）クリスチャンは、住民登録の代わりに、聖霊を受け、国家を超えたキリストの証人となって、全領土、地の果てにまで及ぶ力を授かったのです。

### できっこないをやらなくちゃ

イエス様の挑戦は、できっこないことをやろうとしているのです。ホテルの駐車場で段ボールとタオルで出産するような、命の危機に晒されながら、イエス様は救い主としての産声をあげられました。多くの命が失われていく中で、隣国への難民となりました。批判と中傷を浴びながら、正義を貫きました。仲間に裏切られても、使命を果たしました。苦難と処刑を回避しませんでした。できっこないことをやり遂げて、イエス様が与えてくださったものは、全ての人に与えられる神の愛でした。肉体の死で終わらない永遠の命の希望でした。この世界の果てにまで及ぶ聖霊の力でした。

できっこないことだったからこそ、神の愛が力を持つことを証明できたのです。できっこないをやらなくちゃ。イエス様は、私の心に生まれてくださいます。